

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、課題の見える学年もあるので、引き続き「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、個別に蓄積されたデータを活用し、習熟を図る必要がある。 また、国語の主語・述語に全学年課題がみられたため、全教科で振り返りを書く際に、主語と述語を明らかにしながら書かせることを重点的に取り組み、令和7年度の全国学力・学習状況調査等で改善状況を検証していきたい。
思考・判断・表現	授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定することで、自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力がついてきた。しかし、個人差があるので、学校で系統性のある「振り返りの視点」を定め、それをもとに振り返りを行わせる必要がある。 また、「協働的な学び」の視点から、児童が主体的に課題を解決するためには、多様な他者と関わる必要がある。そのため、交流活動の目的意識や伝え合いの仕方を確認できる学びカードの活用や、他者参照のできるクラウドを活用した授業づくりに取り組み、令和7年度の全国学力・学習状況調査等で改善状況を検証していきたい。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語では、文法、漢字などの基礎的な内容に課題がみられた。算数でも、基礎的な問題である四則計算や面積や体積を問われる問題に課題がみられた。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 授業中や家庭学習で、「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【週1回の学習タイム】学習履歴を確認し、個に応じた指導を行う【月に1度は確認】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力が弱い。 【指導上の課題】 児童が自らの学びを振り返る時間を確保できていない。	⇒ 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。また、振り返りをふまえて、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で10分実施】。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	週1回の学習タイムに「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、漢字や基本的な計算等の反復練習が習慣化し、習熟を図ることができた。また、長期休業中は、3年生以上にスタディサプリの課題を出すことで、個人の進捗差を埋め、学期はじめから個に応じた指導を行うことができた。 学年で教材研究を密に行い、単元のつながり意識し、教科横断的に授業を計画することができた。令和6年度さいたま市学習状況調査「授業で学んだことを、ほかの学習でいかしていますか」の質問項目では平均95%となった。
思考・判断・表現	A	授業づくりを見直し、授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにした。また、振り返りをふまえて、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することができた。令和6年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目では肯定的な回答が平均93%となり、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考えを、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では肯定的な回答が平均96%となった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語も算数も全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。 国語では、「言葉の特徴や使い方」に課題がみられた。その中でも主語と述語との関係をつかめる問題の正答率が低かった。また、漢字の書き取りの正答率も低かった。タブレット端末を活用して考えや感想を書かせることも増え、実際に漢字を書く機会が少なくなったことも一要因として考えられる。 算数では、「変換と関係」に課題がみられた。その中でも「速さ」の問題の正答率が低かった。速さなどの単位量あたりの大きさの意味や表し方についての理解できていない児童がいた。日常生活と関連付けながら授業できるようにする。
思考・判断・表現	国語も算数も全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して高かった。 国語では、記述式の問題で、事実と意見、理由を区別せず、与えられた条件を満たすことができない児童が多かった。分りやすく自分の考えを書くことに課題がみられた。 算数では、「図形」において課題がみられた。球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係をつかみ、立方体の体積を求める問題では、体積の単位とこれまで学習した単位との関係を考察できていない児童が多かった。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、3～6年生で「言葉の特徴や使い方」に課題がみられた。どの学年も主語と述語との関係をつかめる問題の正答率が低かった。日常の会話も主語が省略されることが多く、動詞や形容詞が重要な役割を果たす場合があり、正しい理解ができていないと考えられる。 算数では、どの学年も正答率が高かった。今後もドリルパークやスタディサプリの活用で、基本的な計算等の反復・習熟に取り組んでいく。
思考・判断・表現	国語では、高学年では「話すこと・聞くこと」の正答率が他の区分に比べて低かった。しかし、同集団比較だと正答率の上昇が見られた。引き続き、ポイントを意識してスピーチしたり、話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言をしたりする活動を大切にしていこう。 算数では、どの学年も正答率が高かった。昨年課題のあった「データの活用」では、類似問題の経年での比較より、上昇がみられた。二次元の読み取りや、その特徴を用いて2つの観点からデータを分類し、説明する活動を取り入れていく。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリの活用は週1度は取り組むことができた。しかし、クラスや個人によって差が見られた。学習履歴を確認し、個に応じた指導を行うことはできた。	今までの授業改善策に加え、学習した内容を自分の生活と関連付けながら活用できる知識・技能を修得させるようにする。単元のつながり意識し、教科横断的に授業を計画する。【毎時間】
思考・判断・表現	B	授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定することができた。しかし、振り返りができない授業もあった。また、振り返りを次時に生かす工夫も必要であった。	今までの授業改善策に加え、子どもの思考を促すために、教師が言葉大切に的確な発問をするようにする。【毎時間】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【美園小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的・基本的な知識や技能の定着は概ね図ることができた。しかし、一部の学年では個人差や課題も見られるため、引き続き「ドリルパーク」などの学習アプリを活用し、個別に蓄積されたデータをもとに習熟を図る必要がある。また、算数の「数と計算」に課題がみられたことから、授業の中で全学年において学習内容を丁寧に指導し、反復練習を継続的に進めなければならない。今後も、令和7年度全国学力・学習状況調査などを通して、改善状況を継続的に検証していきたい。
思考・判断・表現	どの学年においても「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。そこで、児童が自分の考えをもち、互いに伝え合う活動や、説明・発表の場を授業内に意図的に設定する。「協働的な学び」の視点から学習過程を見直し、活動の中に共同編集等を位置付け、計画的に思考したり表現したりする機会を充実させる。また、交流活動の目的意識や伝え合いの仕方を確認できる学び方カードの活用や、他者参照可能なクラウドツールを活用した授業づくりにも引き続き取り組んでいく。今後も、令和7年度の全国学力・学習状況調査等を通して、改善状況を継続的に検証していきたい。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 習熟度の差が大きい。国語では、漢字や主語と述語の関係に課題がみられた。算数では、速さなどの単位量あたりの大きさの意味や表し方について課題がみられた。</p> <p><指導上の課題> 「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリで、個人に蓄積されたデータを活用できていない。</p>	⇒ 振り返りや考えを表す際には、タブレット端末だけでなく、ノートや学習カードなども効果的に活用し、正しく漢字を書けるようにどの教科でも指導する。【毎時間】 「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリで、個別に蓄積されたデータを活用したり、机間指導をしたりして個に応じた指導を行う。【月に1度は確認】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 振り返りの時間を設定することで、自らの学びをメタ認知し、自己調整していく力がついてきたが個人差がある。協働的な学習や話し合いに目的意識がなく、課題解決学習の取組に個人差が大きい。</p> <p><指導上の課題> 振り返りの視点が学校で定まっていない。目的意識をもたせずに交流活動を行っている。</p>	⇒ 学校で系統性のある「振り返りの視点」を定め、それをもとに振り返りを行わせるとともに記述内容を評価していく。【毎単元終了後】 交流活動の目的意識や伝え合いの仕方を確認できる学び方カードの活用や、他者参照できるクラウドを活用した授業づくりに取り組み。【毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	基礎・基本の定着を図るため、「ドリルパーク」や「スタディサプリ」などの学習アプリを活用し、反復学習に継続して取り組ませることができた。また、アプリの学習履歴を分析し、データを授業改善に生かす取組も行った。さらに、ノートや学習カードなど実際に書く活動においても、どの教科でも正しい漢字の書き方を指導することができた。学習過程を見直し、定着が難しい単元については重点的に扱い、体験的な学習活動を取り入れながら理解の深まりを図ることができた。
思考・判断・表現	B	学校として系統性のある「振り返りの視点」を設定し、各教室に掲示した。それらの視点をもとに振り返りを行わせ、記述内容について評価していくことができた。また、朝学習の「対話の時間」では、目的意識を明確にした上で、相手の考えを尊重しながら聞く活動を重ねることで、「話す力・聞く力」の育成を図ることができた。さらに、令和7年度さいたま市学習状況調査の「学習した内容について、分かった点やよく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という項目は、肯定的な回答が平均94.6%となり、学習の振り返りに関する取組が一定の成果を上げていることが示された。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語・算数・理科3教科とも全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して良好であった。国語では、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低かった。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することに課題がみられた。目的や意図に沿って線や囲みなど図示することによって自分なりに情報を整理できるようにすることが重要である。算数では、「変化と関係」に課題がみられた。数直線上に示された数を分数で表す問題で、1より大きい分数として捉えて表すことができない児童が多かった。基準となる数を見いだし、数量の関係をつねえさせることが重要である。理科では、「エネルギー」粒子」を柱とする領域の正答率が低かった。身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるかそれぞれの性質の理解に課題がみられた。学習した知識を身の回りに見られる事象・現象と関係付け、物質の性質に関する理解を深めることが重要である。
思考・判断・表現	国語・算数・理科3教科とも全国学力・学習状況調査の全国平均正答率と比較して良好であった。国語では、「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。インタビューをする際には、知りたいことを聞く目的に加えて、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識させることが重要である。算数では、「変化と関係」の百分率を使って捉え直し表現することに課題がみられた。知識の修得と活用する活動を行き来しながら理解を深めていくことが重要である。理科では、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が低かった。回路を実際の生活の中で行うことに関する理解に課題がみられた。ものづくり活動では、児童が明確な目的を設定し、達成できているかを振り返り、修正するという活動の充実を図り、理解を深めることが重要である。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ◆小3:国語は同程度だが、算数で市平均を下回った。算数では、「数と計算」に課題がみられた。 ◆小4:国語・算数とも市平均を下回った。国語は「言葉の使い方や特徴」、算数では「数と計算」計算に課題がみられた。 ◆小5:国語・算数・社会は同程度～上回る結果となった。理科は下回り、そのなかでも顕微鏡の使い方に課題がみられた。 ◆小6:4教科とも市平均より上回った。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ◆小3:国語・算数とも市平均を下回った。国語の「話す・聞く」、「書く」に特に課題がみられた。 ◆小4:国語・算数とも市平均を下回った。特に算数の場面と図を関連付け、二つの数量関係(小数倍)の理解に課題がみられた。 ◆小5:算数は市平均と同程度だったが、国語・社会・理科では下回った。特に理科の「粒子」を柱とする領域で課題がみられた。 ◆小6:4教科とも市平均より上回った。その中でも国語の「話すこと・聞くこと」に課題がみられた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	振り返りを書かせる際には、主語・述語を意識しながら書かせている。「ドリルパーク」「スタディサプリ」等のアプリを活用し、取り込むことができた。蓄積されたデータを確認し、個に応じた指導を行うことはできたが、得られたデータの分析・活用・授業改善のサイクルを効果的につなげていることに課題が見られる。	今までの授業改善策に加え、授業内での基礎基本の反復練習や板書の工夫をしていく。【毎時間】 学習の定着が難しい単元を重点的に扱い、体験的な活動を通して知識・技能の確実な習得を図っていく。【単元ごと】
思考・判断・表現	B	学校で系統性のある「振り返りの視点」を明確にし、それをもとに振り返りを行わせるとともに記述内容を評価していくことができた。交流活動の際は、目的意識を明確にし、伝え合いの仕方を確認できる学び方カードの活用や、他者参照できるクラウドを活用した授業づくりもできた。【毎時間】	今までの授業改善策に加え、朝学習の「対話の時間」でも目的意識を明確にし、自分の考えを整理して表現することや、相手の考えを尊重しながら聞く力の育成を図っていく。【対話の時間ごと】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)